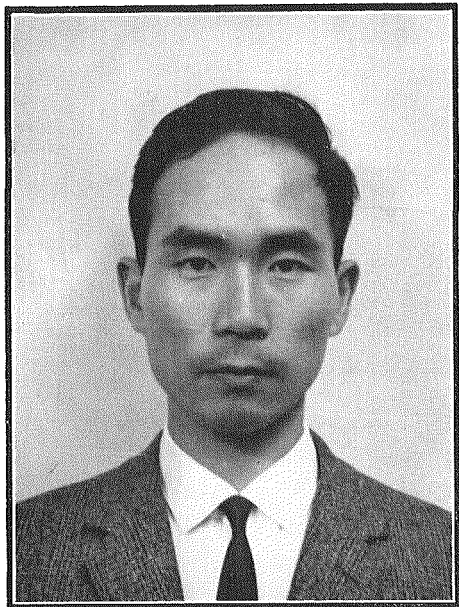




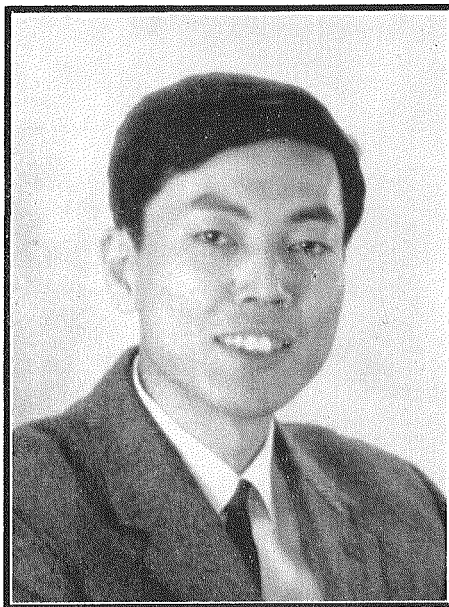
Title	田沢誠一，葛西俊之両助教授の死を悼む
Author(s)	孫野, 長治
Citation	北海道大学地球物理学研究報告, 20, i-ix
Issue Date	1968-09-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/14380
Type	other
Note	田沢誠一及び葛西俊之の肖像・目録・略歴あり
File Information	20.pdf



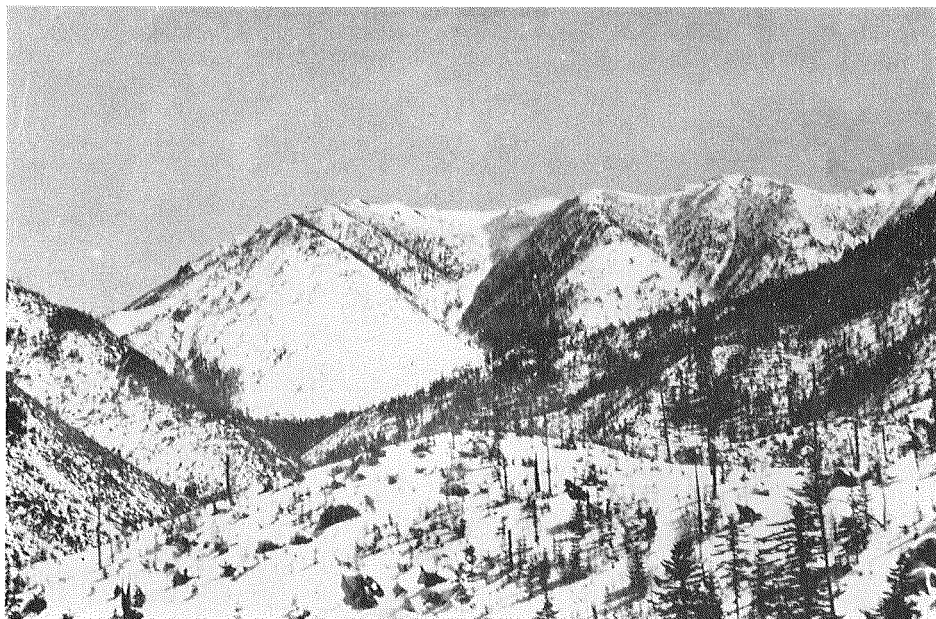
[Instructions for use](#)



故 田 沢 誠 一 助 教 授



故 葛 西 俊 之 助 教 授



音更山，手前が観測機の遭難地点
(陸上自衛隊札幌航空隊の好意による)

田沢誠一，葛西俊之両助教授の死を悼む

昭和43年4月4日，まだ雪深い音更山で二人の尊い生命が失われた。石狩川源流域の積雪を航空写真により測定中，航空機の事故により殉職した。二人は自然に立ち向うすべての者の苦難を一身に背負うかの如く，何者にも代えがたい若き命を科学に献げた。

田沢誠一，葛西俊之の両氏は4月4日札幌丘珠飛行場を，北海道航空よりチャーターしたセスナ機に乗り午前11時45分頃出発したが遂に帰着時間が過ぎても帰らなかった。何とか生存中に救出しようと空から，海から，地上からの必死の搜索を続けたにもかかわらず，遂に5日目の4月8日午前10時47分頃生存の期待空しく大雪山系音更山北斜面に激突したセスナ機を発見し，パイロットを含む三人が遺体となって見つかった。

田沢君は昭和12年新潟県魚沼郡千手町に生れ，札幌西校を経て北海道大学水産学部遠洋漁業学科に進み，昭和37年卒業して直ちに理学部大学院地球物理学修士課程に進学し気象学に専念するようになった。博士課程在学中，学問への情熱と卓抜な独創性が認められ，昭和41年4月気象学講座の助手として研究に励む事になった。

大学院在学中に考案したスノークリスタルゾンデは君のすぐれた業績を物語るものの一つである。この奇抜なアイデアに富んだ雪採集器を用いて君自身により見事な空の雪結晶を捕えて，雲物理学者の自然に立ち向う足がかりとした。これは人工雪をはじめて作った中谷先生の伝統が見事に開花したものといえよう。この成果は国内では勿論，外国においても大きな関心事となり，昭和42年12月に米国の五大湖の降雪の観測に共同観測者として招かれた。

君はまたその律義な性格と強い責任感の人として，教室においてはあらゆる人の良き協力者，良き相談相手であった。学生に対しては愛情深い師であり，友人に対しては人間味豊かな友であり，師に対しては常にひかえめな人であった。

葛西君は昭和14年赤平市茂尻に生れ，砂川北高校を経て北海道大学理学部地球物理学科に進み，昭和38年卒業して引続き同科において修士課程に進学し新進気象学者として第一歩を踏みはじめた。君は早くから豊かな才能を発揮し，雲の模型実験，波状雲の研究，そしてまた最近気象衛星より見た雲の解析と一貫して雲の研究に多大な足跡を残した。特に君が開発した気象衛星より撮られた二枚の連続雲写真より雲の分布を立体的に調べる方法は，気象衛星写真の利用に新たな分野を開拓するものとして学会の注目を集めた。

君はまたその温厚な人徳ゆえに誰からも愛された。研究室においては君は人と人とのかすがいであり，同僚，後輩の為にも誠心誠意尽す人であった。

御遺族の悲しみは想像にあまりあるが，両君が共に一人息子であった事はなおさら悲痛にたえない。大事に大事に育てあげてやっと一人前の人間に成長した時に，人生の半ばにも達し

ない若さで、先に逝ってしまったこの不幸せな息子達の逆縁の不孝は咎めないでやって頂きたい。

両君の残したすぐれた業績および若さの無限な可能性を考える時、両君の死は学会の大きな損失である。交情をかわした地球物理学教室一同は深く哀惜の意を表する次第である。

(孫野長治記)

田沢誠一助教授論文目録

- 繫留気球による鷗川付近の海霧の観測
地球物理学研究報告, 第 11 号 (1963), 3-9 頁, 田沢他 2 名.
- 繫留気球用自記通風乾湿計の試作
天気, 第 11 巻, 第 8 号 (1964), 252-254 頁.
- Observations of Snow Clouds by Means of "Snow Crystal Sondes". Proc. International Conf. on Cloud Physics, Tokyo and Sapporo (1965), pp. 231-235, 田沢他 1 名.
- A Study on the Snowfall in the Winter Monsoon Season in Hokkaido with Special Reference to Low Land Snowfall (Investigation of Natural Snow Crystals VI). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VII, Vol. II, No. 3 (1966), pp. 287-308, 田沢他 4 名.
- Design of "Snow Crystal Sondes". Jour. Atmos. Sci., Vol. 23 (1966), pp. 618-625, 田沢他 1 名.
- 石狩平野の降雪の総合観測 (V)
日本気象学会昭和 40 年秋季大会, 田沢他 2 名.
- S. C. Sonde による雪雲の観測 (III)
日本気象学会昭和 41 年秋季大会, 田沢他 1 名.
- S. C. Sonde の捕捉率の決定
日本気象学会昭和 41 年秋季大会, 田沢他 1 名.
- 航空写真用スノーマーカーによる積雪量の測定方法について
日本気象学会昭和 42 年秋季大会, 田沢他 1 名.

以上 9 編

田沢誠一助教授略歴

- 昭和12年11月2日 新潟県魚沼郡千手町に生る
- 昭和28年4月 北海道立砂川南高等学校入学
- 昭和30年4月 北海道立札幌西高等学校編入学
- 昭和32年3月 同上卒業
- 昭和33年4月 北海道大学水産学部遠洋漁業学科入学
- 昭和37年3月 同上卒業
- 昭和37年4月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学修士課程入学
- 昭和39年3月 同上卒業
- 昭和39年4月 北海道大学大学院理学研究科地球物理学博士課程入学
- 昭和41年4月 北海道大学助手に任官
- 昭和43年4月 北海道大学助教授に昇進
- 昭和43年4月4日 大雪山にて積雪調査中殉職

葛西俊之助教授論文目録

- Studies of Clouds Produced by Low Level Jets and Mountain Waves. Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol. 43 (1965), pp. 196-205.
- An Observation of Snow Crystals and Their Mother Cloud. (Investigation of Natural Snow Crystals V). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VII, Vol. II, No. 2 (1965), pp. 123-148, 葛西他 4 名.
- A Study on the Snowfall in the Winter Monsoon Season in Hokkaido with Special Reference to Low Land Snowfall (Investigation of Natural Snow Crystals VI). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VII, Vol. II, No. 3 (1966), pp. 287-308, 葛西他 4 名.
- 海上の雲の航空写真による解析 I (雲の高度の決定)
天気, 第 13 卷 (1966) 325-330 頁, 葛西他 1 名.
- Preliminary Observation of Cloud Distribution using a 16 mm Movie Camera from an Airplane. —Clouds over the Pacific Ocean: Part I—. Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol. 45 (1967), pp. 177-184, 葛西他 2 名.
- Cloud Distribution across a Cold Front over the Middle Northern Pacific Ocean. —Clouds over the Pacific Ocean: Part III—. Jour. Meteor. Soc. Japan, Vol. 45 (1967), pp. 478-489, 葛西他 2 名.
- 冬期季節風時に於ける列状雲に対する地形の影響について
日本気象学会昭和 41 年秋季大会.
- 雪雲の TIROS 写真と地上観測写真との比較解析
日本気象学会昭和 41 年秋季大会, 葛西他 1 名.
- 石狩平野における雪雲の総合的観測 V
日本気象学会昭和 41 年秋季大会, 葛西他 2 名.
- ESSA 2 号 APT による雲写真のステレオ解析
日本気象学会昭和 42 年春季大会, 葛西他 1 名.

葛西俊之助教授略歴

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 昭和 14 年 2 月 5 日 | 赤平市茂尻に生る |
| 昭和 29 年 4 月 | 北海道立砂川北高等学校入学 |
| 昭和 32 年 3 月 | 同上卒業 |
| 昭和 34 年 4 月 | 北海道大学理学部地球物理学科入学 |
| 昭和 38 年 3 月 | 同上卒業 |
| 昭和 38 年 4 月 | 北海道大学大学院理学研究科地球物理学修士課程入学 |
| 昭和 40 年 3 月 | 同上卒業 |
| 昭和 40 年 4 月 | 北海道大学大学院理学研究科地球物理学博士課程入学 |
| 昭和 42 年 4 月 | 北海道大学助手に任官 |
| 昭和 43 年 4 月 | 北海道大学助教授に昇進 |
| 昭和 43 年 4 月 4 日 | 大雪山にて積雪調査中殉職 |

遭難の搜索経過報告

故田沢誠一、葛西俊之両助教授は、「大雪山系石狩川源流域の積雪等の調査研究について」本学部地球物理学科気象学講座における主要な研究教育課題として、又、国際陸水十カ年計画の一環として調査研究に従事中遭難致しました。

気象学講座においては、この調査に一昨年度来、夏季間に積雪量の標識スノーマーカーを大雪山系石狩川源流域に設置し、最大積雪量時に観測を行なう等して調査研究計画を進めてきていた。

今回もこの計画に基づいて、両助教授が航空機によってこれを調査中、不慮の災厄に遭い殉職するところとなりました。

この日、昭和43年4月4日11時45分に、15時46分空港帰着予定をもって、燃料5時間分を積載した、北海道航空のJA 3323セスナ172型機で丘珠空港を出発された。

しかるに、帰着予定時刻が過ぎても同機が空港に帰ってこないため、丘珠空港長から搜索の第一着手が打たれました。

以上本学部の搜索本部の資料に基づき遭難の搜索経過について謹んで御報告致します。

第1日目) 4月4日

16時40分、丘珠空港事務所より道警本部へ「セスナ機が帰着予定時刻が過ぎても帰って来ない」旨連絡。

17時30分頃、航空機10機、ヘリコプター4機が大雪山予定コースを搜索、19時30分頃、日没のため搜索打ち切り。

17時30分頃、孫野教授に連絡あり、直ちに丘珠空港に急行。

同日16時頃、石狩湾方面で遭難機を目撃したとの情報により巡視船「礼文」が海上を搜索す。

21時頃、陸上搜索隊派遣決定、準備に入る。福富理学部長、横山教授、田治米教授、宇津助教授、田助教授等参集の上搜索本部を理学部におく。

第2日目) 4月5日

2時30分、先発搜索隊15名をもって編成、3時理学部出発、7時45分現地搜索本部の大雪山営林署層雲峡保養所に集結、又、道警旭川方面本部、地元警察、パトカー、無線機なども同所に集結。陸上搜索の重点を、撮影の目的であったスノーマーカー設置箇所7方面にしぼる。

編成された班は、1～5班まで、北大理学部地球物理学教室、ワンゲル部、北海道教育大学、6、7班は主として大雪山営林署。

9時10分出発、17時頃下山。

15時、第2次隊として田治米教授以下地球物理関係者5名、小林助教授、清水助教授以下低温科学研究所より4名、榎助手以下工学部より2名、名古屋大学樋口教授、高橋助教授、雪害実験所中村研究室長、札幌管区気象台より石田予報官以下4名および田沢、葛西両家の親族到着。

空からの搜索

5時より

自衛隊よりセスナ機5機、ヘリコプター5機

道警よりヘリコプター1機

全日空よりヘリコプター1機

横浜航空よりセスナ機1機

北海道航空よりセスナ機1機

計14機が出動したが18時頃引き上げる。

海上搜索

石狩湾に3隻出動せるも情勢判断に基づき午後搜索を打切る。

第3日目) 4月6日

空からの搜索

5時より

自衛隊よりセスナ機3機

ヘリコプター1機

道警よりヘリコプター1機

計5機出動したが天候悪化のため搜索は午前中で打切る。

陸上搜索

北大、気象台、名古屋大学、大雪山営林署、上川遭難対策協会関係者計35名で12個班を編成して、主として前日踏査した以外の地域を搜索した。

6時出発、14時ないし15時下山命令、16時までには帰着。この間に聞き込み搜索を石北峠以東北見富士地域まで実施した。

第4日目) 4月7日

3時半頃までに北大山岳部およびOB、木崎甲子郎以下8名、酪農大学堀井克之、札幌山岳会川越昭夫以下4名の第3次隊到着。

空からの捜索

自衛隊よりセスナ機 8 機

ヘリコプター 7 機

道警よりヘリコプター 1 機

の計 16 機が 5 時より 18 時に亘って捜索した。

陸上捜索の範囲を石北峠以東約 10 軒の北見富士まで移動、拡大のうえ 6 時出発、15 時～16 時下山。

捜索隊内訳

北大関係	44 名
大雪山営林署	3 名
上川営林署	4 名
上川遭難対策協会	6 名
北大山岳部および OB	7 名
札幌山岳会	4 名

計 68 名

夕刻北大より東教授（工学部）、藤木助教授（理学部）到着。

第 5 日目） 4 月 8 日

前日夕刻、武華峠付近で機体の破片らしきものの発見の情報に基づき、零時頃、北海道航空により現地付近に照明弾を打上げ、陸上捜索班も参加せるも発見できず。

4 時半、日の出を待って陸上班 1 個班が出動して破片を発見せるも遭難機のものとは異なることが判明。

7 時半、7 個班出動、機体発見の報により 11 時頃下山開始、1 個班のみ夕刻下山。

空からの捜索

10 時 45 分自衛隊機が音更山北斜面 1,200 米高度付近に遭難機の機体発見、続いて同機体内に 3 人の遺体を発見。

17 時 30 分、自衛隊のヘリコプターにて遺体を収容す。

なお、航空機の事故の直接原因は航空局及び道警において目下調査中であります。

（以上北海道大学理学部葬の報告による）